

2022年度 総会・記念講演会の議事録

第1部 2022年度総会の部

1. 日時：2022年11月12日（土）13：15～17：00

第1部：総会 13：15～14：45

第2部：記念講演会 15：00～17：00

2. 場所：日吉独立館4階 D407教室

3. 司会：辻総務部長

議長：竹原会長代行、書記：広瀬塾員部副部長

4. 参加者：34名（敬称略）

赤岡充雄、阿部光江、足立万里子、石川綾子、稲生弘子、大川誠一、木村一道、櫻井芳寛、鈴木経彦、迫一美、志村茂利、須藤志能子、高橋伸和、高橋豊、竹原貢、田中清治、塚田光博、辻昭彦、露久保孝一、中田幹雄、成井俊昭、平田東助、福里清信、藤田哲三、堀田健、榎卓、丸尾勝彦、宮坂きよ子、山川泰代、山本清徳、横田福子、吉浜健二、前川泰雄、広瀬富子（記）

5. 議事概要

総会に先立ち、参加者の自己紹介を行った。

1) 「総会・記念講演会議事次第」

司会の辻総務部長から、本日の進行に関して以下の説明があった。

第1部は「2022年度各部の活動報告、会計報告、会計監査報告」、「2023年度各部の活動計画案、新ホームページについて、個人情報保護方針について、経理部の予算説明」、「2023年度の役員人事案の説明」、写真撮影の後休憩。

第2部では、池井先生の講演と塾員センター課長の中里様から慶應義塾の近況を伺う。最後は「若き血」の斉唱とする。

司会より、議長には竹原会長代行、書記には広瀬塾員部副部長が推薦され、拍手により承認された。これ以降、議事進行は竹原会長代行となった。

まず吉浜会長からは、総会開始宣言と50周年記念誌へのご寄稿お礼と更なる会の発展が続くことを願っている、2022年度活動報告、2023年度活動計画等の説明をお聞き下さいとの挨拶があった。

- ・竹原議長から当会の規約により、「総会では、役員会で議決されたことを討議し、出席者の過半数で承認される」旨を確認。
- ・司会より、今回はプロジェクターで資料を映すことにより製本作業等、看板の作成の手間が省けたこと、また皆様の協力で2022年度の活動がほぼ予定通り終わったこと、50周年記念誌作成・発送への労に謝辞があった。

(2) 2022年度活動報告

各部長から2022年度活動報告の説明、決算報告、会計監査報告後、質疑応答では質問者がなかった。議長から、2022年度活動報告の採決へと進め、拍手で承認された。

(3) 2023年度活動計画

2023年度活動計画について各部長から詳細説明があった。

1) 「新ホームページについて」

議長から、「ホームページ（以下HPとする）新しく作りましたので皆様からご賛同いただければ今日からスタートしたいとの説明があった。

福里総務部副部長の説明は下記。

- ・このWIX（市販ソフト）を使つてのHPは、専門的なHTMLの知識がなくても使える。
- ・会員のパスワード（PW）がないと見られないサイトがあり、三田会便り、同好会、掲示板はPWで制限し、会員専用である。パスワードは「ktm2023」。
- ・基本的には広報部が発信する情報を載せる。アンダーラインのあるものはリンクが張られている。
- ・会報「日吉の杜（2007年～）、50周年記念誌も掲載されている。また「塾歌」、「若き血」も聴ける。
- ・皆さまのご提案等があれば、「ktm-support@googlegroup」に投稿して欲しい。
- ・HPを見ていただき皆さんの協力を得て行くことで仕上げていきたい。
- ・過去の情報も今後の情報も神奈川通信三田会に関する情報は基本的に全てここにある形にしたい。

3) 「個人情報保護方針」について

議長から、本年度から個人情報・保護方針を正式に設定し運用を始めたいとの補足説明の後、「個人情報保護方針」について説明があった。

4) 2023年度予算案について

平田経理部長から「50周年記念誌に費用（57万円計上）が掛かり、繰越金は7万3千円となる。2023年度は経費の節約をしたい」との説明があった。

質疑応答で、「会報の発送は不要になるのか？」との質問があり、「紙で欲しい人もいるので、すぐに結論はでない。まだ先になると思う」との回答があった。また、2023年度の計画で「1月7日の新年役員会がオンラインになっているのはなぜか？」の質問があり、「参加人数では対面式だと10名ほどであるが、オンラインだと20名以上の参加者がいる。また、新型コロナの感染者が増大し第八波に入っているという報道もされている。オンラインは感染者の予防対策にもなると考えている」との回答がなされた。

議長が2023年度の活動計画について議決を求め、拍手で承認された。

5) 2023年度の役員・顧問について

吉浜会長から、竹原会長代行を新会長に推薦および吉浜会長の顧問就任が提案され、拍手で承認された。

コミュニケーションの円滑化を図ることが肝要と吉浜会長から説明があり、その他各部の新役員の就任についての説明があった。その後、2023年度の役員・顧問人事が拍手で承認された。

6) 竹原新会長の挨拶

先ず指導力と卓越した人脈を持った吉浜顧問の長年の業績に感謝が述べられた。吉浜新顧問の「楽しくなければ三田会ではない」の精神で会員活動をして行きたいと述べた。

第2部 記念講演会の部

1. 記念講演会概要

休憩の後、山川総務部副部長の司会で、池井 優名誉教授による記念講演会が「野球伝来150年—H・ウィルソンから大谷翔平まで」の演題で行われた。

池井先生はご専門の日本外交史の知見を交えながら、「明治維新と外来スポーツの伝来」から始められた。マスメディア（当時は新聞、ラジオ）は野球の人気を盛り上げるのに貢献し、1925年には東京六大学がスタートした。読売新聞がベーブ・ルース招聘を企画し、本人は来なかったものの（ベーブ・ルースは1934年に来日）大リーガーが来日し、大学生と試合を行なった。1936年には、七球団でプロ野球が誕生。戦争による中断等があったが、戦後の早い時期に復活。日本の高度成長に合わせるように、長嶋、王の巨人軍への入団でプロ野球の人気が高まっていった。1995年に野茂が大リーグへ入団、彼の活躍により日本人選手への評価が高まった。その後、イチロー、松井秀喜が大リーグで活躍。現在、大谷翔平が、いわゆる「二刀流」で大活躍中。

(2) 「慶應義塾の近況」

塾員センター中里史郎課長からは、「ダイヤモンドプリンセス号入港以来日本でのコロナ感染者の増加に伴い、2020年1月末期末試験、2月の入学試験までは通常通りであったが、3月に日吉記念館は完成したがコロナ対応のため卒業式はオンラインで開催し、入学式もできず4月の新学期を一か月遅らせる対策を取った。緊急事態宣言が発出されてキャンパスは封鎖された。同年秋学期からは一部（3割）対面授業となった。通信教育では全てのスクーリングが中止となった。課外活動も同様。2021年度は対面授業が5割になり、通信教育はオンラインでのスクーリングになった。2021年は塾長改選時期で長谷山さんから伊藤塾長になった。」と説明があった。また、慶應大学に於ける種々のコロナ対策の一環としてのリモート授業と対面授業の比率の経過、学生並びに近隣住民へのコロナワクチン接種など二年にわたるコロナ対応の変遷並びに現況について言及があった。

塾の近況ご報告の後、竹原新会長が寄付目録を中里様に贈呈した。

最後に「若き血」を斉唱し、散会となった。

なお、総会終了後は、「たつ吉」で池井先生、中里課長も参加され17名で懇親会が行われた。

以上